

<報道発表資料>

2018年9月1日

富士山測候所は 8 月 31 日に閉所し、62 日間にわたる夏期観測活動を終了しました

認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会は、8 月 31 日（木）商用電源を遮断の上、10:53 に富士山測候所を閉所しました。12 年目の夏期観測となった今年は、62 日間の観測期間に延べ 415 人が参加し、29 プロジェクトを実施しました。

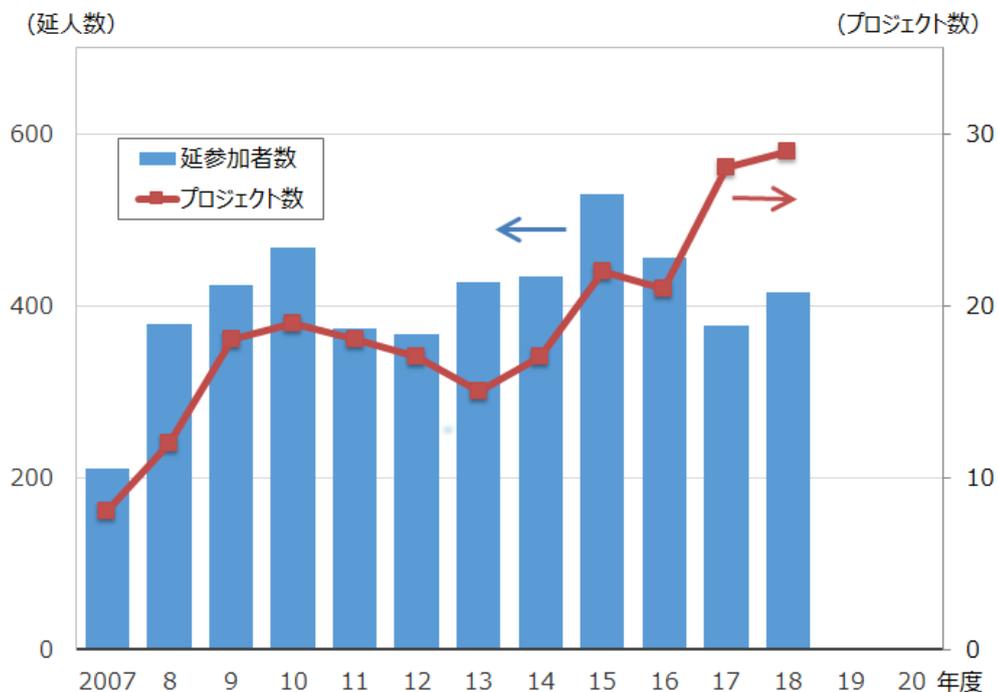
NPO 法人富士山測候所を活用する会は、気象庁から富士山測候所庁舎の一部を借り受け、毎年 7 月・8 月に公募で選ばれたグループの研究・活用に提供しています。2007 年に研究・活用を開始して 12 回目となった今年は、29 事業（継続 21 事業、新規 8 事業）となりました。事業数は昨年と同様の高水準、利用者数は延べ 415 人と例年並を維持しています。

今年度の研究内容の特徴として以下のような事項が挙げられます：①通年観測が定着、②火山噴火に関わる研究の定着、③高所医学研究については、複数プロジェクトで参加人数も大幅に増加、④外国人や学生の新規参加、など。また、昨年度の乾電池とソーラーセルによる数箇月の越冬観測に成功した実績に加え、新たな試みとして、⑤微小電力による長距離通信と GPS との組み合わせで、移動中の個々の登山者の位置をリアルタイムでとらえることに成功しました。これらの先端通信技術は、今後越冬無人観測を含む多方面の研究での応用のほか、登山者の安全確保への応用も期待できます。

また、従来から行っているデータのリアルタイム公開を大幅に充実させ、これまでの二酸化硫黄(SO₂)に加えて、一酸化炭素(CO)やオゾン(O₃)などの大気化学要素や、雷の指標となる大気電場などのリアルタイム公開を新たに開始しました。また、従来東西 2 方向の画像を提供していたライブカメラも東南西 3 方向に拡大し、さらに来年度に向けてより高画質の画像配信のテストも実施しました。この画像は雲物理や大気電気分野での資料とするほか、一般登山者の安全確保にも役立つものです。

今年度のプロジェクトの一部は、一般財団法人新技術振興渡辺記念会殿からの受託事業として、また、日本郵便株式会社殿・年賀寄附金配分事業、一般財団法人 WNI 気象文化創造センター殿・気象文化大賞の助成により実施しております。

夏期観測の研究成果については、10 月から HP 上で順次速報するほか、2019 年 3 月開催予定の第 12 回成果報告会で発表する予定です。



夏期観測参加者数とプロジェクト数の推移